

ピック地区からフランス人民の代表者たちへの請願書

田川光照 訳

『ピック地区からフランス人民の代表者たちへの請願書』は、1793年11月15日に国民公会で朗読されたものである。無神論を展開したこの請願書が朗読されて約一週間後の11月21日、ロベスピエールは「無神論は貴族のものである」とする演説を行い、非キリスト教化の行き過ぎの是正に乗り出す。12月8日の反革命容疑によるサド逮捕の理由をこの動きの中に位置づけることができるとすれば、この請願書は重要な意味合いを帯びることになる（cf. Jean-Jaques Pauvert, *Sade vivant*, t.3, Robert Laffont, 1990, pp.84-97）。

凡例

- 一、翻訳には、*Œuvres complètes du Marquis de Sade*, en 8 vol, Cercle du Livre précieux, 1966-1967 の第11巻に収められたものをテキストとした。
- 二、原文中のイタリックはすべて傍点で示した。
- 三、訳注は、本文中アラビア数字で示し、巻末に送った。

ピック地区からフランス人民の代表者たちへの 請願書

立法者諸君、

哲学の治世が、ついに、ペテン師の治世を打ち砕き、人間は、ついに蒙を啓かれ、愚かしい宗教の浅薄な玩具を一方の手で破壊し、もう一方の手で、彼の心にとって最も大切な崇拜物のために祭壇を築いています。我々の神殿では、理性がマリアに取ってかわり、姦通をはたらいた女の膝下で焚かれていた香は、もはや、我々の束縛を断ち切ってくれた女神の足もとでしか焚かれないでしょう。

立法者諸君、盲目にならないようにしましょう。この迅速な進行は、我々の理性の進歩の結果であるよりも、むしろ、我々の共和主義精神の結果なのです。我々の共和主義精神の力強い高揚は、まさに我が政府の活力のおかげであります。哲学者は、長い間、カトリシズムの猿芝居をひそかに笑っていました。しかし、彼があえて声を上げるとすれば、それはバスチーユ牢獄の中ででした。聖職者の横暴は、彼をそこへ閉じ込めておけばやがて黙らせることができたからです。ああ！ 当然にも、専制政治は盲信を強固にしました。両者とも同じゆりかごの中で養われ、両者とも狂信の申し子であり、両者とも神殿の祭司および玉座の君主という名の無用の人間たちによって仕えられているのであり、同じ基礎の上に成り立ち、互いに擁護しあうのは当然だったのです。

共和主義の政府だけが、王杖を打ち砕くと同時に、残忍な宗教を無に帰せしめることができました。残忍な宗教は、不純な取り巻き連中の欲に奉仕するためにしか存在を認めていない神の名のもとに、聖なる短刀で、たびたび人間をいけにえとして殺しました。言うまでもなく、新しい共和主義精神とともに、我々は新しい信仰を採用すべきでした。そしてローマ人の奴隷である一人のユダヤ人の信仰は、スカエヴォラ¹の子孫にふさわしいものではありませんでした。

立法者諸君、道はつけられました。しっかりした足取りでその道を進もうではありませんか。とりわけ、首尾一貫するために、女が処女のままで子供を産むことができると、一八〇〇年もの間苦勞して私たちに信じさせたガリラヤの娼婦²に、骨休みをさせてやりましょう！ その手先たちもお払い箱にしましょう。スルピスやパウロ、あるいはマドレーヌやカタリナといった連中³をまだ崇めることができるとすれば、それはもはや理性の神殿においてではありません。嘘によって汚された諸々の貴重な記念建造物は、ただちに、もっとおごさかな用途に供しましょう。絵空事を崇めていた場所で美德を崇拜しましょう。それぞれの教会内の、無駄な誓いが亡霊たちに対してなされていた同じ祭壇に、美德の象徴を据えましょう。この生彩ある象徴が我々の心を抱擁することによって、偶像崇拜から英知へと絶えず我々を向かわせてくれるようにしましょう。孝心、偉大な魂、勇気、平等、誠実、祖国愛、善行など、要するにすべての美德のそれぞれが、かつての神殿の一つに祀られて、我々の敬意の唯一の対象となるように

しましょう。我々はそれらの美德を崇拝することによって、それらに従い、それらをまねるようになるでしょう。我々がそれらを据える祭壇から、それらは我々の魂の中に入ってくるでしょう。そして、道徳、すなわち我々のあらゆる社会的慣習の聖なる基礎にして、自然が人間に生を与えるとき常に人間の心の中に置く大切な装置である道徳、あらゆる契約、あらゆる政体にかくも必要でありながら、かくも長い間その執拗な敵であった盲信によって曇らせられていた絆である道徳が、常に上のような手段によって、我々の目の前で活動し、我々がまず第一になすべき義務となり、すべての人の幸福と共和国の強化に貢献することでしょう。

道徳的人間が自然の人間であれば、また他方、共和主義の政体が自然の政体であれば、必然的に、美德が共和主義者を性格づけるものとなります。そして、立法者諸君、我々をその美德で満たすために、美德への信仰を認めましょう。

旬日に一度、その日民衆に開かれるそれら神殿の回廊席が、神殿で崇められる美德への称賛と、最もよく美德に奉仕した市民への称賛で、鳴り響くようにしましょう。この美德に敬意を表して、賛歌が歌われるようにしましょう。美德のためにもうけられた祭壇の足もとで、香が煙をあげるようにしましょう。市民の一人ひとりが、我々の政体のような政体にかくもふさわしい儀式から出てきて、いましがた称えたばかりの美德の実践に胸をときめかし、自分の妻や……子供たちに、美德を実践することの幸福と有益さとを悟らせるようにしましょう。こうして、真実に対して開かれた彼の魂は、かつて宗

教のペテンが美德を毒するのに用いた悪徳しか汲みだすことのできなかった場所で、美德を育むことでしょう。

その時、個人の幸福から確実に結果する万人の繁栄が、世界の最も遠い地域まで広がることでしょう。そして至る所で、教皇権至上主義者の盲信というぞっとする怪物は、理性と美德が一つになった光明によって追い回され、息も絶え絶えになった貴族の汚らわしい巣窟しか避難所はなくなり、ついに哲学が地上で勝利を収めるのを悟って、絶望のあまり貴族のそばへ死に絶えに行くことでしょう。

起草者 サド

ピック地区総会議事録抄

ピック地区総会は、この請願書に見られる信条を称賛し、採択した後、これを千部印刷すること、および、これを国民公会に提出することを全会一致で決定した。国民公会はブリュメール二五日朝の会議で朗読を聞き、優秀の評価、報告書への掲載、および、公教育委員会への送付という栄誉を与えた。

ピック地区総会は、この請願書を国民公会に提出するための委員として、総会委員長ヴァンサン、総会書記アルトー、ならびに、ベック、サネ、ビゾワール、ジェラルール、ギユマール、起草者サドの諸市民を任命した。単一にした不可分なるフランス共和国第2年第2月第3旬日第5日。

委員長 ヴァンサン

書記 アルトーならびにヴィゲ

¹ 前2世紀のローマの政治家。スキピオ・ナシカがグラックスの仲間に対してとった暴力を承認した。

² 聖母マリアのこと。サドは『閨房哲学』（La Philosophie dans le boudoir）の中で、聖母を「ふしだらなマリア」と呼んでいる。「ナザレの凡庸なペテン師は、何らかの偉大な思想を諸君に生み出させるであろうか。彼の汚らしくぞっとする母親であるふしだらなマリアは、諸君に美德を吹き込むであろうか。そして、彼の極楽浄土を一杯にしている聖人たちは、偉大さ、勇壮さ、あるいは美德の手本となっているであろうか」（Sade, Œuvres, t.3, Bibliothèque de la Pléiade, 1998, p.114）

³ キリスト教の聖人たち。